

矢作川流域圏懇談会通信

R7 市民部会編 vol.1



発行日：令和7年8月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第20回市民部会WGを開催しました！

第20回市民部会WGでは、流域連携イベントおよび公開講座に関する情報共有・意見交換を行いました。

日時：令和7年7月31日（木）14:00～17:00

会議場所：豊田市崇化館交流館 第1研究室

参加者：14名 ＊事務局含む



◆主な会議内容

1. 流域連携イベントに関する意見交換



9月7日（日）に開催される矢作川感謝祭と、10月5日（日）に開催される三河湾大感謝祭の出展内容を共有しました。

矢作川感謝祭では、①矢作の恵みプロジェクト（流域内の食材を使用したおにぎり）、②矢作川流域圏懇談会や流域の重要性の説明パネル、③矢作川の生き物タッチプール、④みんなにとって矢作川はどんな川？（景品付き）、⑤矢作川クイズ（景品付き）を実施することを共有しました。

三河湾大感謝祭では、①矢作の恵みプロジェクト（流域内の食材を使用したおにぎり）、②矢作川流域圏懇談会や流域の重要性の説明パネル、③海で起きている問題を動画で解説（海部会）、④海の生き物パネル展示、⑤みんなにとって矢作川はどんな川？（景品付き）、⑥矢作川クイズ（景品付き）を実施することを共有しました。

出展内容を踏まえ、矢作川流域の素晴らしさを市民に広く知っていただく工夫点について、意見交換を行いました。

2. 公開講座に関する意見交換



松沢氏より第6回公開講座のテーマとして、「資源の循環」から農を考える」という案が提示されました。このテーマに基づき、農業の現状と課題、食の安全性に関する課題や活動、農業の未来などをテーマに講演とディスカッションを行う構想が示されました。

また、同氏より公開講座の流れとして、以下の案が提示されました。

- ① 今回の公開講座の趣旨 今なぜ“農業”なのか？
 - ・ 公開講座で農業を取り上げた背景や意味などの説明
- ② 農業に関する問題・課題など
 - ・ 具体的な農業の問題や課題の説明
- ③ 未来につながる活動・取り組み
 - ・ これからの農業につながる活動や取り組みの説明
- ④ 農業と流域のつながり・課題など
 - ・ 流域連携の必要性の示唆、問題提起

提案を踏まえ、農業の現状と課題、環境問題との関連、食の安全性、地域活性化などの観点から、市民の意識を変える必要性等について意見交換を行いました。また、講演者の選定や構成、ディスカッションの進め方についても、より効果的な情報発信と参加型の講座を目指して、具体的な議論がなされました。本日の出された意見を踏まえ、後日詳細を検討します。



農業生産法人 みどりの里の野中氏にも参加いただき、農業の現状と課題について意見をいただいた。

みどりの里では、無農薬、無肥料を通じ、作物の本来持っている生命力、おいしさを引き出す自然栽培の確立に取り組んでいる。

【山村再生担い手づくり事例集 取材ノートより】



◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

●流域連携イベントに関する意見交換

- ・ 昨年のイベントでは、美味しいおにぎりが好評で、来場者の皆様に矢作川の流域についてある程度理解を深めていただけたと思われる。今年のイベントでは、矢作川への関心をさらに高めていただけるよう、皆様のご意見を伺いたい。（鈴木）
 - ▶ コンセプトはどのような内容を想定しているか。（事務局）
 - ▶ 生産者は、アサリの激減や海苔の栄養不足の影響で厳しい状態が続いている。イベントでは、生産者と消費者が直接顔を合わせ、つながる場所となれば良いと考える。（鈴木）
- ・ お米も海苔もおいしいため、おにぎりは塩むすびで良いと考える。（沖）
- ・ おにぎりのチラシについては、説明文を大きくして矢作川流域の恵みをアピールすべきである。（光岡）
 - ▶ おにぎりの美味しさを通して、環境や流域の重要性も伝えられるような表現方法を検討している。（事務局補佐）
- ・ 海苔の色見本を見せることで、海の栄養塩問題に関心を持ってもらえる機会となると考える。同時に、海部会での活動をアピールすることもできる。（近藤）
 - ▶ 綺麗な海ではなく、豊かな海を目指すことの重要性を伝える必要がある。（高橋）
 - ▶ 栄養塩の問題に関心を持ってもらうため、イベントでは色落ちした海苔を展示する。（事務局補佐）
- ・ おにぎりを握る人が足りない状況である。（鈴木）
 - ▶ 去年は事務局補佐がお手伝いしていたが、今年は事務局側ではなく懇談会のメンバーと協力して実施したい。（事務局補佐）
 - ▶ 前もって条件等の擦り合わせができれば、無門福祉会の協力が得られる可能性がある。（野中）
 - ▶ 無門福祉会に協力を依頼するため、事務局・事務局補佐と調整する。（鈴木）

●公開講座に関する意見交換

- ・ 矢作川の水循環、林業、農業など上流から海までの繋がりを主題とし、生産者と消費者の関係性を豊かにする方法を探ることができればよいと考える。野中さんの経験から、現在の課題と将来への希望を共有し、意見交換したいと思う。（鈴木）
 - ▶ 気候変動の影響で病害虫が増えてきたり、新しい病害虫が出てきたりしている。一方で、新規参加者が増えてきており、福祉施設のメンバーも仕事ができるようになってきているという希望がある。（野中）
 - ▶ 食べ物の問題を単なる経済問題として捉えるのではなく、自然との関わりを通じて、物事の本質を理解することが重要である。（山本）
 - ▶ 人間は自然の一部ということをご一般の方が忘れてしまっているため、そのことに気付いていただけるような公開講座になるとよい。（藤永）
 - ▶ 農業の問題や課題は多岐にわたるが、流域圏懇談会の公開講座としてどこまで取り上げるか、コンセプトを明確にする必要がある。（光岡）
 - ▶ 土作りが農業のベースであり、水循環と海の豊かさにも影響する。流域圏懇談会の公開講座としては、矢作川の土や水循環について議論ができればよいと思う。（井上）
- ・ 第6回公開講座のテーマ、内容、流れなどの案としてまとめた。4つの項目（趣旨、課題、未来への取り組み、流域との繋がり）を含むストーリー構成を考えているので、皆様のご意見を伺いたい。（松沢）
 - ▶ 岡崎市では、学校給食に有機米を導入し、環境問題への取り組みを始めている。このように、自治体が主導して農家の協力を得やすい環境づくりを行う可能性や、農福連携について取り上げることも案として考えられる。（沖）
 - ▶ 岡崎市がオーガニックビレッジ宣言を行い、交付金を活用して学校給食に有機栽培農産物を導入した。このような形で、市民の声により行政の取り組みを後押しすることが重要である。（藤永）
 - ▶ 話が拡散するとテーマを絞り切れなくなる。また、基調講演者をどなたにしようかと課題である。（近藤）
 - ▶ 実際に農業に取り組んでいる人物（野中さんや山本シゲさんなど）を候補として考えている。（松沢）
 - ▶ 吉田太郎先生の有機農業に関する講演が良かったため、案として考えられる。（藤永）
 - ▶ 人口減少時代における農業と地域創生の問題を扱うとともに、農業を自分事として捉え、消費者の意識変革を促すことが公開講座の落としどころになると考えられる。（近藤）
 - ▶ 人として健全で安全な食を確保するために、何をしないといけないのかを考えることが大事である。その中で、農業のスマート化をどうやって推進し、若年層を取り込んでいけるかを考える必要がある。（松沢）
 - ▶ 人材確保の観点から、障害者の農業分野への就労支援に取り組んでいる。障害のある方々は、それぞれの得意な分野で能力を発揮し、職員と協力しながら作業を進めている。ほかにも川の取水口の清掃等、取り組めることは多くあると考えている。これらの活動や成果について、より多くの方々に知っていただきたいと考えている。（野中）
 - ▶ 松沢さんが提案した起承転結の流れをベースにしながら、講座内容をさらに拡充していくべきである。今回、「食と農業」というテーマを初めて取り上げたが、今後も継続的に取り組むべき重要な課題だと考えている。（近藤）
 - ▶ 名古屋環境大学でSDGsに関する講座などがある。共通する部分があれば流域圏懇談会と力を合わせるができるかもしれない。（高橋）

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R6 山部会編 vol. 4



発行日：令和7年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第71回山部会WGを開催しました！

岡崎市にて第71回山部会WGを開催しました。今回のWGは、テーマ別の活動進捗状況の報告やFWで視察する「天使の森プロジェクト」の活動を紹介していただきました。

日時：令和7年2月7日（金） 13:30~17:00

場所：こもれびかん（岡崎市）

参加者：26名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. テーマ別の活動進捗状況の報告



テーマごとに活動進捗状況について、担当者より報告いただき、意見交換を行いました。

■流域圏担い手づくり事例集（豊田市矢作川研究所 洲崎 主任研究員）

- ・流域圏担い手づくり事例集Ⅵの作成方針について報告しました。
- ・事例集Ⅵは2024~2025年度にかけて2冊に分けて作成します。テーマは「人口、税収の減少」「流域治水、水利用、流域環境保全（ネイチャーポジティブ）を組み合わせた流域総合水管理」「地域住民が自分ごととして取り組む防災」「（仮）伊勢湾流域圏大学」です。
- ・2024年度版は、12月に開催した公開講座「流域の視点から見た治水・環境と総合水管理～市民とともに創る豊かで持続可能な社会～」の記録を掲載し、流域総合水管理の理念を共有します。
- ・2025年度版は、持続可能な流域に向けて研究や人材育成をしている諸団体・個人が既に（仮）伊勢湾流域圏大学の一端を担っているという位置づけ、取材等によって紹介します。
- ・第5回公開講座「流域の視点から見た治水・環境と総合水管理～市民とともに創る豊かで持続可能な社会～」の実施後のアンケート結果や感想について報告しました。

■森づくりガイドライン（山部会 蔵治 座長）

- ・根羽村で開催された「根羽村 森とまちの流域学」について報告しました。当該プロジェクトは地域資源を磨き上げ、魅力を最大限に活用することで、オンラインワンに「輝く農山村地域」の創造を目指す長野県のプロジェクトです。根羽村は「森林」を核とした取組地域に選出され、令和6年度から始動しています。コンセプトは「流域がつながり合う経済圏をつくる」とし、源流の根羽村が矢作川流域の暮らしや企業、社会に対してできることを村の皆さんと考え、学び、これからのプロジェクトへ活かしていくために企画されました。
- ・他にも岡崎市中山間政策課の高平祐輔氏より、岡崎市の取組みについて報告しました。岡崎市の森林整備ビジョンや森づくり協議会について、「未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト」等をご紹介していただきました。

■木づかいガイドライン（森と子ども未来会議 鈴木代表）

- ・第15期の木づかいガイドラインでは、「流域産材」の利用を呼び掛け、「流域産材」の活用事例や活用方法をまとめた資料を作成し、各自治体に提唱・PRすることを目標とする報告をしました。
- ・都市の木造化推進法に基づき設定された各自治体の木材利用の方針を比較し、見えてきた課題を報告しました。安城市では「根羽村産材」や「その他自治体間交流を行っている地域産材」という記載があります。その他の山が無い自治体では主に県産材の活用が記載されています。今後はそのような自治体に流域産材を呼び掛けていくこと報告しました。

2. 岡崎市の話題提供



- ・岡崎市森林組合の組合長を務める荻野昌彦氏から、「天使の森」プロジェクトについて説明していただきました。「天使の森」プロジェクトはNPO法人アースワーカーエナジー代表小原淳氏が中心になって森林の再生、里山の暮らし、地域循環型産業を考え、その実現に貢献していくことを目的としています。そのために様々な研究者をはじめとした各分野の専門家や地域に住む市民、企業、関係団体等の幅広いメンバーがお互いの知恵と知識を共有し、課題解決に取り組んでいます。

3. その他



- ・2月15,16日に学生を中心に足助地区で森のミライ合宿を実施する予定です。森のミライ合宿は奈佐の浜プロジェクトと地域の未来・志援センターが協働で行っている取組です。次世代の担い手の経験の場づくりをサポートすることを目的としています。矢作川流域圏懇談会をはじめとした様々な団体と連携し、ネットワークを活用した取組を実施しています。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

【テーマ別の活動進捗状況の報告】

1. 流域圏担い手づくり事例集

- ・ 矢作川と第 14 期に交流のあった多摩川、公開講座で話題が上がった球磨川流域との人口密度を比較した。その結果、多摩川流域はおよそ 3000 人/m²、球磨川流域はおよそ 69 人/m²、矢作川流域はおよそ 400 人/m² であった。流域ごとに人工密度に差があるので流域に合った、治水計画が必要である。また、人口減少と同時に東京圏への人口の一極集中も問題となっている。多摩川も今後は人口が減少していくため、矢作川や球磨川の取組が先進事例になると考える。(近藤)

2. 森づくりガイドライン

- ・ 岡崎市の森林整備ビジョンでは「めぐみ・うるおい・やすらぎ」が共生する森を目指している。目標達成に向けて、課題を抽出している。年に 2 回森づくり協議会というものを開催し、政策の進捗状況等を確認している。また、近年は森林環境譲与税を活用した森林経営管理制度により、適切に管理されていない森林を市が仲介役となり、森林所有者と林業事業体をつなぐことを進めている。他にも中流部を盛り上げるために公共建築物には岡崎市産材を用いている。岡崎市では上下水道局等とも連携して森林整備活動「未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト」という取組を実施している。(高平)
- ・ 今後は老朽化していく施設をどう維持していくかが重要となる。今後の維持管理では水循環等の自然資産をどのように活用していくかが重要となる。(近藤)

3. 木づかいガイドライン

- ・ 木づかいガイドラインは今期のはじめに各自自治体の担当者の把握と、流域産材をアピールする資料の作成を目標とする。最終的には 11 月ごろに「木づかいミーティング」のようなものを開催したい。(鈴木)
- ・ 「おかざき木づかい塾」において昨年は卒業制作として災害時の仮設住宅で 4 人家族が住む家をテーマにコンペを開催した。木材を活用して簡易的に組み立てることが可能であり、プレハブより住環境も良く、地域材を活用できるため広めていきたい。(鈴木)
 - ▶ 「おかざき木づかい塾」は令和 5 年から開催されており、建築士や学生、木材関係者を対象に勉強会をしている。東京や大阪といった地域からも応募があり、岡崎まで実際に足を運んでいただき、セミナーを開催した。(高平)
 - ▶ 国産材の自給率は上昇しており、製材の自給率は 50% に近づいている。国産のものを使う流れが少しずつ進んでいる。それはウッドショック等で外国産材が入りにくくなっている影響と考える。木材の競争力や地域の木材が積極的に選ばれるようにし、CO₂ を極力排出しないようにしていきたい。流域は運命共同体というのを矢作川から発信できれば良いと感じた。(長野)

4. その他

- ・ 岡崎森林組合の下請けをしている方が 5 月に亡くなられる事故が発生した。4 月に森林組合の職員が中心となって安全研究会を実施する予定である。まずは安全に対する意識を改める予定である(荻野)



今後の予定

次回の山部会WG・FWは、令和7年6月27日(金)～28日(土)豊田市にて開催します。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。





発行日：令和7年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆天使の森プロジェクト（トウナイドコ）の見学

最強寒波の大雪の中、岡崎の最も東端に位置するトウナイドコで実施している「天使の森プロジェクト」を見学しました。
プロジェクトの概要や取り組み内容について説明していただきました。



日時：令和7年2月8日（土） 9:30～11:30

場所：岡崎市 東河原町

案内：秋吉直樹氏（NPO 法人アースワーカーエナジー）

参加者：21名（事務局を含む）

◆フィールドワークの記録

【プロジェクトの概要】

「天使の森」とは誰もが天使になれる、という願いが込められており、岡崎の最東端に位置し、山頂から三河湾を望むことができる場所にあります。

森から海は繋がっている、このことが想起できる貴重な場所であり、森林の再生、里山の暮らし、地域循環型社会を考え、幅広いジャンルや世代のメンバーがお互いの知恵と知識を共有し、共に課題解決に取り組んでいく場を創り、モデル事業を推進しています。

今回は、その拠点となるトウナイドコにおいて、建築中の施設（休憩所、種倉庫）や楮による紐づくりの現場を視察しました。



天使の森プロジェクトの拠点



建築中の種倉庫



建築中の休憩所



楮による紐づくりの現場

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R7 山部会編 vol. 1



発行日：令和7年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第72回山部会、川部会合同WGを開催しました！

豊田市にて第72回山部会、川部会合同WGを開催しました。今回のWGは、テーマ別の活動進捗状況の報告や愛知県河川課、林務課の方からカーボンニュートラルについて話題提供をしていただきました。



日時：令和7年6月27日（金） 13:30~17:00

場所：豊田市旭交流館

参加者：33名 ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. テーマ別の活動進捗状況の報告



テーマごとに活動進捗状況について、担当者より報告いただき、意見交換を行いました。

■流域圏担い手づくり事例集（豊田市矢作川研究所 洲崎 主任研究員）

- ・流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-1の完成を報告し、取り組みの概要を説明しました。多くの方に手に取って読んで欲しいため、みなさまに積極的に配布していただくことを推奨しました。
- ・今年度後半に、2冊目となる流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-2を発行予定であることを報告しました。

■山村ミーティング（NPO 法人山里文化研究所 丹羽副代表）

- ・昨年度に「森と人をつなぐ」を刊行するなどの活動を行ってきましたが、地域間を繋げ、皆で幸せに笑いながら暮らせる地域を作り、森と人の問題を解決するために山村ミーティングとしての活動を改めて議論しました。

■森づくりガイドライン（山部会 蔵治 座長）

- ・矢作川流域の市と村の間伐・皆伐面積の実績データを整理し、変化をグラフで示しました。近年の間伐面積は、ほぼ横ばいでしたが、今年は恵那市と豊田市が減少する結果となりました。
- ・海と森の繋がりについても議論された不知火海・球磨川流域圏学会の創立20周年記念シンポジウムについて紹介しました。
- ・長良川河口堰やシカによる森林植生と土砂災害への影響のシンポジウムについて情報共有しました。

■木づかいガイドライン（森と子ども未来会議 鈴木代表）

- ・あいち森と緑づくり委員会の委員を務めており、委員会の活動内容を情報共有しました。

2. カーボンニュートラルの話題提供



■矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクト（愛知県建設局河川課）

- ・愛知県河川課から、矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクトについて話題提供しました。
- ・愛知県の温室効果ガス排出量は全国最多クラスであり、矢作川・豊川カーボンニュートラル推進協議会を設立し、水に関わる関係団体、流域市町村、官民の連携を強化するため、経済団体も参画することになりました。
- ・「再生可能エネルギー」「エネルギーの省力化」「CO2吸収量の維持・拡大」「新技術・新システムの導入」の4つの視点で取り組んでいくことを説明しました。
- ・木瀬ダムの小水力発電の設置と、発電した電力を活用した地域づくり、菱地遊水地の県内初の遊水地空間を活用した太陽光発電の取り組みについて情報共有しました。
- ・水循環基本計画において2050年カーボンニュートラル等に向けた地球温暖化対策の推進が閣議決定されました。

■森林クレジット（愛知県建設局林務課）

- ・愛知県林務課から、森林クレジットについて話題提供しました。
- ・Jクレジット制度の対象となっている愛知県の森林クレジットについて、活用意義や市場ニーズについて説明しました。
- ・2023年からJクレジット認証量が急増しており、近隣地域における森林クレジットの取り組みについて情報共有しました。
- ・豊田森林組合、大垣共立銀行、(株)パイウィルによって、Jクレジットを活用したカーボンニュートラルに関する協定が締結されました。

3. その他



- ・神谷氏と小堀氏が、多摩川流域懇談会の設立経緯や活動を紹介し、今後開催される流域セミナーについて情報共有しました。
- ・豊田市森林課が、学生を対象とした林業体感・見学ツアーについて情報共有しました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

1. テーマ別の活動進捗状況の報告

(1) 流域圏担い手づくり事例集

- ・ 昨年の多摩川流域懇談会との交流を経て、流域ごとに抱えている課題が異なっていることを痛感した。流域ごとの大きな違いとして、流域単位の人口密度が挙げられる。(近藤)
- ・ 流域総合水管理に努めるということは、想像を絶する覚悟と努力が必要であり、国民全員が認識する必要がある。(近藤)

(2) 山村ミーティング

- ・ 個人で林業を始めたが、組合から仕事が供給されず、若手人材の育成が難しい。地元住民が、外部から就業した人との関係構築に保守的になっている地域も存在する。(小田)
 - ▶ 外部からやってきた人に対して寛容である地域と、保守的な地域が存在している。人間としての尊厳を尊重し、山仕事に従事する誇りを持ち、地域から感謝される仕事をするには、どうすれば良いか考え、大きな枠組みを作る必要がある。(丹羽)
 - ▶ 林業従事者は不足しており、労働力として個人事業主は必要である。しかし、素人から始めると安全面に不安があるため、3年程度経験し、勉強することが必要である。(小島)
- ・ 流域圏内のフェアトレードが重要であり、川だけの問題ではなく、山、里などの第1次産業を繋ぎ、工業や金融経済を回していく状態が生まれてくる。(山本)

(3) 森づくりガイドライン

- ・ 豊田市の間伐面積の減少理由は、週休2日制の導入や就業福祉制度の導入である。間伐事業の費用の多くが人件費であり、安全に配慮すると、人件費が増加してしまう。(小山)
- ・ 恵那市では、昔は切り捨て間伐であったが、最近は搬出間伐となり、間伐した木を搬出するのに費用がかかってしまう。また、コスト削減のため広範囲をまとめて間伐すれば良いが、森林環境税の間伐は、狭い範囲を対象とするため、間伐面積の減少に繋がっている。(小島)

2. カーボンニュートラルについて話題提供

- ・ 建設工事におけるCO₂の削減量は、自動車約500台分のCO₂排出量であり、効果としては大きくないのではないかと。(戸田)
 - ▶ CO₂の排出量としては少ないが、県の管理するダムのカarbonニュートラル化、発電時も発電可能であるなどの評価も含め、管理施設として事業が成り立っている。(川瀬)
- ・ 岡崎市は、三菱が森林整備のお金を出し、カーボンクレジットを買い取る契約だが、愛知県は、森林整備までのお金は出さない契約となっている。(小山)
- ・ 岐阜県で行っているGクレジットの取り組みは、個人事業で整備した森林を対象としており、Jクレジットは、県の環境税で整備した森林を対象としている。(小島)
- ・ 愛知県が全国的にもCO₂の排出量が多いが、県内でCO₂を削減するためには、森林に限らず、海などあらゆるものを使っていく必要がある。(小田)



今後の予定

次回の山部会WG・FWは、令和7年8月1日(金)～2日(土)平谷村にて開催します。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 フィールドワーク vol.1



発行日：令和7年7月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆「つくラッセル」と「押井町普賢院」の視察

廃校となった小学校の校舎を活用した「つくラッセル」の場の在り方と成り立ちについて説明していただきました。

また、「押井町普賢院」では暮らしの場としての山村を次世代につなぐ「自給家族 & Open Common」の取り組みについて説明していただきました。

日時：令和7年6月28日（土） 9:30～11:30
場所：豊田市 旭八幡町・押井町
案内：戸田友介氏・鈴木辰吉氏
参加者：22名（事務局を含む）



◆つくラッセルの記録

つくラッセルは、廃校となった築羽小学校の校舎を活用し、多くの人々がつながり、つどい、はたらき、つくる場所となっています。現在に至るまでに、地域住民のチーム崩壊といった困難を経験しながらも、人々との関わりを大切に、多くの事業を創造してきました。

多くの人を巻き込んだ事業を推進してきた結果、全国的な人口減少・少子高齢化の傾向とは対照的に、築羽自治区の将来人口推計は、横ばいであり、特に子供の人口は増加傾向にあります。

今回は、戸田氏につくラッセルについて説明していただいた後、施設内の様子を視察しました。



戸田氏によるつくラッセルの説明



施設内の視察

◆押井町普賢院の記録

押井町普賢院にて、消費者と生産者が3～10年のお米の長期栽培契約を結び、共に豊かになることを目指す「自給家族」という取り組みを説明していただきました。

2020年産から始まった自給家族は、2025年産は330家族まで広がっております。

また、過疎化などにより、管理が行き届かない森林や農地を、集落住民とそこに価値を見出す人々がつながり、みんなで決めたルールの下で適切に管理しながら活用する「Open Common」という取り組みも説明していただきました。

今回は、鈴木氏に押井の里の取り組みを説明していただいた後、押井町普賢院周辺の森林施業の様子を視察しました。



鈴木氏による押井の里の説明



森林施業の視察

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R7 山部会編 vol. 2



発行日：令和7年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第73回山部会WGを開催しました！

長野県平谷村にて第73回山部会WGを開催しました。平谷村での開催は初めての試みとなりました。今回のWGは、テーマ別の活動進捗状況の報告や平谷村役場と飯伊森林組合の方から、平谷村の概要と森林環境譲与税の活用状況について話題提供していただきました。

日時：令和7年8月1日（金） 13：30～17：00

場所：平谷村役場

参加者：31名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. テーマ別の活動進捗状況の報告



テーマ別の活動進捗状況について、担当者より報告し、意見交換を行いました。

■流域圏担い手づくり事例集（豊田市矢作川研究所 洲崎 主任研究員）

- ・ これまでの流域圏担い手づくり事例集活動の概要を説明しました。
- ・ 流域圏担い手づくり事例集VI-IIでは、流域総合水管理の実現につながると考えられる活動団体に取材を実施し、事例集として整理する方針を報告しました。
- ・ 取材先の候補団体について案出しを行いました。今後の議論を通じて、最終的な取材先を決定することを報告しました。
- ・ 山部会だけでなく、川部会や海部会の方にも取材に協力していただき、担当している分野以外の方に取材することが望ましいことを報告しました。

■山村ミーティング（代理：山部会 蔵治 座長）

- ・ 出発点「矢作川の恵みで生きる」と今後の活動について意見交換を行いました。
- ・ 経済の観点で、上下流を連携させる必要があり、森林組合だけでなく、木材流通の流れを対象とすることを提案しました。また、木材だけに捉われず上流部で生産されている産物も対象とすることを提案しました。
- ・ 上流部の人々が幸せになるために、ビジネスサイクルとして中下流部の人々ができることを考えていくことが、今後の大きなテーマであることを説明しました。
- ・ 今後、丹羽氏や事務局を含めて山村ミーティングの活動の方向性について決定することとなりました。

■森づくりガイドライン（山部会 蔵治 座長）

- ・ 木材利用をテーマに開催された令和7年度第1回とよた森づくり委員会の内容を紹介しました。皆伐再造林に対して民間主導での実施を推奨していることを情報共有しました。
- ・ 皆伐再造林をしない場合、巨木の森を形成することになり、倒木などによりライフラインを脅かす危険性があることを説明しました。また、倒木後の跡地で土砂崩れが発生する危険性が高まることを説明しました。
- ・ 皆伐後に再造林した樹木は、メカニズムは不明ですが、0～10年の間で土砂崩れが発生する確率が高いことを林野庁が発表していることを情報共有しました。
- ・ 国土審議会・社会資本整備審議会が発表した「流域総合水管理のあり方について」答申について説明しました。

■木づかいガイドライン（森と子ども未来会議 鈴木代表）

- ・ 矢作川流域の自治体の中でも、森林のない自治体は、木材利用に対してイメージが湧いてない場合もあるため、流域産材の活用を広めることの重要性を説明しました。
- ・ 矢作川流域圏と豊川流域圏全体で住宅・非住宅のブランド化を山側から提案するなどの、今後の方向性について説明しました。

2. 平谷村の概要、森林環境譲与税の活用状況について話題提供



■平谷村の概要（平谷村産業建設課）

- ・ 平谷村の人口、気候、産業等の概要について説明していただきました。
- ・ 矢作川水源基金から、村有林の間伐事業への助成金をいただいていることを報告していただきました。
- ・ 矢作川流域地域交流事業として、平谷村でバスツアーを開催したことを報告していただきました。
- ・ 矢作川沿岸水質保全対策協議会に協力し、碧南市との交流により雪の提供や潮干狩りへの参加などの交流があることを報告していただきました。

■森林行政の活用状況（飯伊森林組合）

- ・ 平谷村で実施している森林環境譲与税を活用した森林整備について説明していただきました。
- ・ 森林整備の実施方針に基づき、令和2年度から約10年間に渡り、全ての対象森林の意向調査等を実施していくことを報告していただきました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

1. テーマ別の活動進捗状況の報告

(1) 流域圏担い手づくり事例集

- ・ 流域材利用の活動についても、流域圏担い手づくり事例集に組み込めると思う。(三ツ松)
 - ▶ 木づかいガイドラインと山村ミーティングが協力し、流域材利用の活動の調査と推進を図れば良いと思う。(洲崎)
 - ▶ 流域材利用の活動は、流域圏担い手づくり事例集とは、分けて木づかいガイドラインとして進めていく方針が良いと思う。(三ツ松)

(2) 山村ミーティング

- ・ 森林のない安城市と根羽村は交流があったが、徐々に薄れてきていると感じる。そのため、流域全体の交流を増やすために、安城市と根羽村に取材をしたいと思っている。(近藤)
- ・ 平谷村では、農業に携わる人手が不足している。個人的にサポートしているが、企業が行っているような取り組みに民間が参画できるような仕組みがあれば良いと思う。(宇角)
 - ▶ ビジネスサイクルを作ろうとする企業は上流域にも下流域にも存在している。(蔵治)
 - ▶ 山を支える産業として大事な農業であるにも関わらず、山部会に農業を専門とする方が参加されていない。今後、流域圏担い手づくり事例集と協力しながら、連携を図ることができれば良いと思う。(蔵治)

(3) 森づくりガイドライン

- ・ 巨木化した時の状態を見たことがある人はいない。全国的にも経験が浅く、災害の危険性があると思う。とりわけ直根がない状態で植えられているスギに懸念を抱いている。また、巨木化することで集落全体が日陰となり、集落が消滅する可能性があるのではないか。そのため、集落が持続可能な森づくりをする必要がある。(山本)
- ・ 岐阜県では皆伐してすぐにバイオマス発電に使用できるところに限り、バイオマス発電用の木材を生産する動きがある。(小島)

(4) 木づかいガイドライン

- ・ 林野庁で法改正の話があった。これまではどう木材を集めて事業とするかの視点であったが、木材流通全体の話が含まれるようになった。各自治体の考えや状況があるため、具体的にどう進めていくかは決定してはいるが、今後、協議会が開催される予定である。(高橋)
- ・ 恵那市の間伐面積が減少している問題があるため、関係者に聞いたところ、森林環境譲与税の間伐事業が繰り越されていることに原因があると回答いただいた。(小島)

2. 平谷村の概要、森林環境譲与税の活用状況について話題提供

- ・ 平谷村の森づくりの特徴や、根羽村との違いがあれば教えて欲しい。(太田真知子)
 - ▶ 根羽村はスギが多く、平谷村はカラマツが多く存在している。根羽村はスギを主体とし、昔から生計を立てており、平谷村は雪に強いカラマツを植えて、徐々に注目されてきている印象がある。(太田俊之)



今後の予定

次回の山部会まとめの会・FWは、令和7年10月3日(金)～4日(土)恵那市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R7 フィールドワーク vol.2



発行日：令和7年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆平谷村高嶺の皆伐事業の視察

平谷村高嶺のカラマツ皆伐事業の現場を視察しました。平谷村における皆伐事業の実状や、当該現場の事業内容、架線集材システムについて説明していただきました。

日時：令和7年8月2日（土） 10:00～11:00

場所：平谷村 高嶺

案内：佐々木氏（飯伊森林組合）

参加者：28名（事務局を含む）



◆フィールドワークの記録

今回のフィールドワークでは、林齢 60 年のカラマツ皆伐事業の現場を視察しました。現場では既に作業道が整備され、集材の準備が進められていました。

当該現場の集材方法は、システムラジコンを使用し、荷掛け、搬送、荷卸しを安全な場所から無線操作を可能にした架線集材システムが用いられています。従来の集材方法は、作業員を集材機の周囲に配置する必要があり、危険であり、実際に事故が発生することもありました。そのため、作業効率と作業安全性が高い集材方法として、架線集材システムを用いています。

林業従事者の減少などが原因で、一度集材機を操作する技術力が衰退する事態になりました。そこで、平谷村の協力のもと、当該現場で技術力の向上を目指し、架線集材システムを活用した皆伐事業を実施することとなりました。

今回、佐々木氏に現場状況や、集材方法の詳細を説明していただきながら、技術力の伝承に関わる貴重な現場を視察しました。



佐々木氏による事業内容の説明



FWの様子



集材システムで使用する機械



伐採後の樹木の様子

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。





発行日：令和7年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第17回山部会まとめの会を開催しました！

岐阜県恵那市にて開催した第17回まとめの会は、テーマ別の活動進捗状況の報告と第15期の振り返りおよび第16期の活動目標について議論しました。また、森林整備と流域材利用のあり方や、翌日のFWで案内していただくリコーエナの森の活動を紹介していただきました。

日時：令和7年10月3日（金） 13:30~17:00

場所：恵那文化センター

参加者：32名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. テーマ別の活動進捗状況の報告

テーマ別の活動進捗状況について、担当者より報告し、意見交換を行いました。

■流域圏担い手づくり事例集（豊田市矢作川研究所 洲崎 主任研究員）

- ・ これまでの流域圏担い手づくり事例集の活動と来期に発行予定の「流域圏担い手づくり事例集VI-II」の概要について説明しました。
- ・ 「流域圏担い手づくり事例集VI-II」では、取材先リストについてや、遠州灘流域圏を含んでいることを報告しました。山部会に限らず他部会や他団体も巻き込んで、取材担当者を決定していくことを報告しました。
- ・ 事例集交流会は「流域圏担い手づくり事例集VI-I」と「流域圏担い手づくり事例集VI-II」をまとめて、来期に開催することを報告しました。

■山村ミーティング（山部会 丹羽 副座長）

- ・ 出発点「矢作川の恵みで生きる」を用いて山村ミーティングの今後の方針について意見交換しました。
- ・ 「森林整備と流域材利用のあり方について（提案）」を基に、今後の活動を決定していくことを報告しました。

■森づくりガイドライン（山部会 蔵治 座長）

- ・ 森づくりガイドライン関連の今後の予定を報告しました。また、全体会議の同日の午前中に開催される「未来へつむぐ命の水と森の座談会」について情報共有されました。
- ・ 長期計画である森づくりビジョンの進捗管理を行っている岡崎市森づくり協議会の内容を説明しました。

■木づかいガイドライン（森と子ども未来会議 鈴木代表）

- ・ 来期の活動目標として、矢作川流域圏懇談会が中心となり、流域産材を活用するためのプラットフォームを作ること報告しました。
- ・ あいちの木材利用施設事例集に記載されている、あいち木づかい表彰受賞施設等の愛知県材の木材を利用した好事例について情報共有しました。

2. 第15期の振り返りと第16期の活動

- ・ 第15期の振り返りと第16期の活動目標について話し合いました。
- ・ 4つのテーマの今期の活動実績を報告しました。「流域圏担い手づくり事例集」、「森づくりガイドライン」、「木づかいガイドライン」は、来期の活動目標において、今期から継続している事項や、来期から新たに取り組む事項について報告しました。また、「山村ミーティング」の来期の活動目標については、本まとめの会の結果を踏まえて、修正していくことを報告しました。

3. 森林整備と流域材利用のあり方について（提案）

- ・ 木づかいガイドラインと山村ミーティングの合同テーマとして、森林整備と流域材利用の両立する方法を検討することを報告しました。
- ・ 流域材利用の成果と課題についてまとめ、情報共有することや、自治体や建築家などの関係者に思いを語ってもらい、意見交換する会を設けることを提案しました。

4. リコーエナの森の話題提供

- ・ リコーエナの森の成り立ちや森林の特徴について説明していただきました。
- ・ 2014年より協議会体制となり、リコーエナの森中山道里山協議会を結成し、多くの人々、団体が関連していることを説明していただきました。
- ・ 「創る・学ぶ・遊ぶ多様な森」をテーマに様々な森づくり活動や学びの場として活用されていることを説明していただきました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

1. テーマ別の活動進捗状況の報告

(1) 流域圏担い手づくり事例集

- ・流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-Ⅱの冒頭で、流域圏大学の概要や必要性について蔵治氏と菅場氏の対談を掲載するのはどうか。(近藤)
 - ▶蔵治氏と菅場氏の対談を踏まえ、流域圏大学について、今後の展望等の寄稿文を近藤氏が作成する。(洲崎)
- ・川に関連する取材先は山を専門とする人が取材するなど、専門分野が異なる方に取材してもらい、様々な立場、観点から情報を整理していきたい。(洲崎)

2. 第15期の振り返りと第16期の活動目標

- ・地域の木材の利用方針について、地域住民も考える機会が増えるような目標を設定すると良いのではないか。(山本)
- ・今後、木材の利用や森を活かす取り組みを担う若い世代の参加者が少ない。そういった若い世代や山に興味がない人々へのアプローチが重要と考えるが、懇談会ではどのようなアプローチをしているか。(吉水)
 - ▶地域の未来支援センターと22世紀奈佐の浜プロジェクトが共同で、学生を巻き込んだ取り組みを実施し、森や海について学ぶ機会を設けている。(近藤)
 - ▶上記のような活動をしたおかげか、ここ2年くらいで矢作川流域圏懇談会に興味を持ち、参加して下さる方も増えてきた。(三ツ松)
 - ▶WGで議論するだけでなく、各自がWGで得た情報を発信していくことが重要である。(近藤)

3. 森林整備と流域材利用のあり方について(提案)

- ・流域材の利用は、川下に住む都市住民に森林の公益的機能や水源域のコミュニティ存続の重要性について関心や知識を高めてもらい、川上と川下の住民の交流、流域内フェアトレードを進めるきっかけとなる。(洲崎)
- ・テーマごとだけではなく、森林全体の問題として捉え、農山村に様々な人を巻き込み、新しい形の地域に根付いた生産活動や第1次産業を創出していく必要がある。(山本)
- ・流域等の広い範囲を対象とすると、活動の効果が見えにくい部分があると思う。そのため、若い世代や子育て世代を対象を絞り活動すると、効果が見えやすいと思う。(吉水)
- ・人々が行きたいと思えるような楽しい山村を目指すことが重要と考える。根羽村のハッピーマウンテン等の成功事例を基にそれぞれができることから具体化していくと良いと思う。(吉水)
- ・林業に携わる人々の多くが効率的な木の切り方について考えており、伐採後の森づくりに関心のある人が減少している。持続的な木材生産や公益機能を高めるための森づくりをしてくためにも森づくりの手法等を議論していく必要である。(高橋啓)

4. リコーエナの森の話題提供

- ・リコーエナの森で子供達と遊ぶイベントを開催した。イベントの内容は企画せず子供発信で考えてもらい、自由な遊びをしていた。(高橋寿成)



今後の予定

次回の山部会 WG・FW は、令和8年2月6日(金)～7日(土) 岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R1 フィールドワーク vol.3



発行日：令和7年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆恵那市リコーえなの森の視察

恵那市にあるリコーえなの森を視察しました。

リコーエレメックス恵那事業所に隣接する広大な森を散策させていただき、リコーえなの森が取り組んでいる森づくり活動や、学びの場としての活用方法等を説明していただきました。

日時：令和7年10月4日（土） 9:00～11:00

場所：恵那市

案内：曾我氏（リコーえなの森中山道里山協議会）

参加者：19名 ※事務局を含む



◆フィールドワークの記録

リコーえなの森では、遊歩道の補修、川を横断する橋の作成、コンクリートを使用しない砂防工事に加え、子供の遊び場としての虫の棲み家、生物調査といった生物保全活動など、幅広い活動が行われています。

また、学びの場としても活用されており、地元小学校の課外授業では、どんぐりや落ち葉など自然の素材を使った遊びの体験ができます。さらに、農業高校と共同で、害鳥獣と共生しながら農林業の被害を避ける研究も行っています。

リコーえなの森は「自然共生サイト」の認定されており、先進的な活動が高く評価されています。「自然共生サイト」とは、環境省が認定する民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域のことです。

今回のフィールドワークでは、曾我氏に説明をしていただきながら、遊歩道を歩き、森づくり活動の一貫として創られた空間や施設を視察しました。



曾我氏による活動の説明



生物多様性保全の取り組み



子供の遊び場の様子



センターハウスの様子

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R7 川部会編 vol.4



発行日：令和7年3月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第66回川部会WGを開催しました！

第66回川部会WGは、安城市の水田貯留事業の取組について情報共有し、意見交換をしたほか、第3回中部のいい川ワークショップの紹介、今期の活動方針について意見交換を行いました。



日時：令和7年1月31日（金）14:00～16:00
会議場所：豊田市 崇化館交流館（第1研修室）
参加者：14名（内オンライン参加2名） ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 安城市の水田貯留事業の取組の紹介



安城市の向井氏より水田貯留事業の取組について紹介いただきました。安城市では、「市民、事業者及び行政が協働して、雨水を水資源として捉え、さらに防災の視点を取り入れた雨水対策を推進する。」という基本方針に沿った各種施策として、農地などの雨水が浸み込む土地の保全や水田貯留の推進を掲げました。

事業の推進にあたっては、地域の主たる耕作者（営農）との強い協力関係を築き上げることが重要であると説明がありました。

また、流域治水対策の取組事例として、行政情報・地域情報等の発信に関する連携を紹介いただきました。令和6年11月19日の「愛知と安城を味わう学校給食の日」に水田貯留を実施している田んぼで収穫されたお米を提供し、学校給食を通して水田貯留事業のPR活動を行ったとのことでした。

2. 第14期の活動実績と第15期の活動目標



・ 第14期の活動実績

第14期に実施した活動は、川部会が取り扱う3つのテーマの目標達成に向けた活動計画を策定していくため、テーマに関する課題、アイデア等を意見交換しました。①河道に関する課題（本川・支川）に関して、矢作川関係の卒業研究紹介および意見交換の実施状況を報告したほか、総合土砂管理について土砂供給実験・置土実験箇所の視察、水力発電に関する情報共有を行いました。また、②流域に関する課題としては、流域治水の取り組みについて情報共有・意見交換を行いました。

・ 第15期の活動目標

第15期（令和7年11月まで）の活動目標は「山・海・まちをつなぐプラットフォームとしての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する」を目標に3つのテーマ（「①河道に関する課題（本川・支川）・②流域に関する課題・③交流に関する課題」）に基づいて活動を進めていきます。

第15期では、矢作川流域圏の特色（現状の課題や資源・資産）の共有や、ダム・水力発電等のエクスカージョンから流域圏の課題を知っていただく機会を設けるなど交流・共有の機会を創出します。

3. 今後の予定



事務局・関係者より以下の連絡・案内がありました。

【流域連携イベント】

中部のいい川ワークショップ(2/1)、矢作川シンポジウム(2/1)、第17回「川の日」ワークショップ関東大会(2/22)

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

● 安城市の水田貯留事業の取組の紹介

- ・水田に水を張らないと生物多様性が失われる。安城市の取り組みを他の農協にも伝えてほしい。(高橋)
- ・説明会への呼びかけは農業組合、土地改良区などの団体を通していいのか。(光岡)
 - ▶ 説明会への呼びかけは管理を委託する町内会や水田の地権者・耕作者である。(向井)
- ・費用負担はだれがするのか。(光岡)
 - ▶ 費用負担は、安城市である。(向井)
- ・田んぼダムとして水を貯留する必要があるときに、稲作の収穫時期と被った場合はどうするのか。収穫は秋の手前であり台風の時期に被ると思われる。(松沢)
 - ▶ 水の貯留を希望しない時期もあると想定されるため、耕作者の判断にまかしている。したがって、確実に貯留できる保証はなく、治水対策のサブメニューのような感覚で実施しており、行政が賄いきれない部分を補うものとして捉えている。(向井)
- ・実際に水田貯留を行っている営農さんの評判はどうか。(鈴木)
 - ▶ 5cm の孔しか空いていない板をはめることによって排水不良を起こす心配があったが、実際には問題はなく、前向きに捉えてくださっている。(向井)
- ・一時的に水を貯めるだけでは、生物多様性に寄与しない。重要なのは冬に水を張ることである。冬に田んぼの隅に水を貯めるだけでも生物多様性が飛躍的に向上すると思う。(松沢)
 - ▶ 生物多様性という観点は考えていなかったため、他の部署も巻き込んで考えてみたい。(向井)
- ・流域の外からの水であれば水利権等の制限があるため、冬に水を貯めることが可能か。(鷲見)
 - ▶ 河川管理者として正常流量は確認しているが、明治用土土地改良区が水利権として入れることができれば可能性はあると考えられる。(蔭山)
- ・子どもに田んぼの魅力を知ってもらう機会を設ける必要があり、それは我々の責任だと思う。(松沢)
- ・事業を推進している土木課は農業関係の部署とも連携しているのか。(内田)
 - ▶ 農業とも調整しながら、面的に効果的な水田貯留ができるような方向に向かって他部署も巻き込んで動いている。(向井)
- ・安城市のブランドとして発信できれば、この取り組みが注目されると期待している。(蔭山)
- ・学校給食でのPRは、取り組んでいる農家だけでなく、まだ取り組んでいない農家にもインセンティブになると思われる。また、定量的な効果検証はされているか。(鷲見)
 - ▶ 基準水位に達する頻度が減ってきているため、治水安全度が上昇している認識である。(向井)

● 第14期の活動実績と第15期の活動目標

- ・流域治水、流域総合水管理を考えるうえで、多摩川と矢作川の違いを明確に認識することは大事なので、多摩川との交流会は非常に意義があった。今期は多摩川が矢作川に来るため、川部会が中心となると思う。(近藤)
- ・他流域との比較は自身の流域を認識するきっかけになる。「テーマ②流域圏に関する課題」の矢作川流域圏の特色(現状の課題や資源・資産)をまとめる契機だと思う。(鷲見)
- ・「テーマ③交流・共有に関する課題」について、行政を含めた関係団体への発信ということで、提案や提言、啓発という言葉が入ってきて良いと考える。(光岡)
 - ▶ 活動目標のうち、発信が重要ということは共通認識と思うので文章に入れる。文言については、事務局、事務局補佐、座長で話し合っ、次回の部会で提案する。(内田)
 - ▶ 発信は部会内だけではなく、外部にどのように発信するのが重要である。(近藤)
- ・農業に興味を持たれている市民部会の方々と関わる機会が少ないので、交流する機会があれば良いと考える。(向井)
 - ▶ 市民部会の目標として農業をテーマとしているため、市民部会での情報共有やイベント関連の参加など安城市と引き続き協力していきたい。(小池)



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R7 川部会編 vol.1



発行日：令和7年8月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第67回川部会WGを開催しました！

第67回川部会WGは、今期前半（令和6年度）の活動を振り返るとともに、今後の活動計画・目標について話し合いました。また、矢作川流域の生態系や環境の変化について、話し合いました。

日時：令和7年6月19日（木）14:00～16:00

会議場所：豊田市 崇化館交流館（視聴覚室）

参加者：19名（内オンライン参加3名） ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 矢作川流域圏懇談会について

今期より、川部会座長が中村先生となりました。中村先生は、名古屋大学で「水の視点から国内外の都市や地域をフィールドに持続可能な国土形成に関する教育・研究」を行っています。

今期、新座長として1回目の川部会であることから、矢作川流域圏懇談会の目的、運営方針、昨期の活動実績・今期の活動目標等を確認しました。

2. 今期前半（令和6年度）の活動成果と今後の活動目標

今期前半（令和6年度）に実施した活動としては、川部会が取り扱う3つのテーマ「①河道に関する課題（本川・支川）、②流域に関する課題、③交流・共有に関する課題」に関して今後の活動計画や方針、課題等の意見交換を行いました。なお、河道に関する課題（本川・支川）に関し、矢作川水系総合土砂管理事業の土砂供給実験箇所や置土の現場視察を行いました。また、それらに伴う意見交換の実施状況を報告しました。

また、日本を取り巻くエネルギー資源の現状、矢作川水系の水力発電等について中部電力株式会社から情報を共有していただき、意見交換を行いました。

今期の活動目標として、今期前半の活動目標と同様に3つのテーマについて、「山・海・まちをつなぐプラットフォームとしての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する」を目標に活動を進めていきます。

3. 情報共有・意見交換

■川部会における課題と方向性

河川整備計画策定から15年が経過し、社会変化に伴う課題の共有の必要性が指摘されました。その中で、流域委員会で挙げられている課題を川部会で共有することで、現状把握と具体的な改善策の検討が進むと意見が出ました。また、今一度、流域全体での具体的な目標を掲げた方が良いという意見も出ました。

川部会活動の活性化のため、WG開催の回数増加や現場視察による具体的な課題抽出、市民部会との連携による水遊びイベント開催などが提案されました。さらに、若い世代の川部会の参加促進や世代交代を踏まえた活動の継続性が問題視されました。

■矢作川の生態系・環境

矢作川は、生物多様性の観点から、本川と支川での現状が異なることが指摘されました。特に、本川の生態系や親水性について、過去の状況を踏まえて再考する必要性が提起されました。当時の人々の意識や環境の状態を知ることは、矢作川の未来像を考える上で重要であるとの意見が出されました。

■今後の予定

事務局より、今期後半の活動計画について説明しました。令和7年10月頃に予定している次回WGで、今回出た意見について、具体化していく予定です。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●川部会に関する課題点や意見

- ・カーボンニュートラルの内容がなぜ山部会との合同部会となっているのか。(中村座長)
 - ▶ 愛知県の矢作川・豊川では、カーボンニュートラルの取り組みをしている背景があり、山部会において、山部会の森林組合がJクレジット制度を活用しているためである。(事務局)
 - ▶ 多摩川との交流をしている中で、流域総合水管理の先進事例として矢作川が挙げられている中で、カーボンニュートラルが記載されており、興味をもったためである。(近藤)
- ・河川整備に関する課題点等の内容は、河川管理者の中で共有されているのか。流域委員会で共有されている課題を、この懇談会で共有しないと何が問題となっているのか分からないのではないか。(境)
 - ▶ 整備計画策定時から矢作川流域や川の課題は変化していることもあり、流域委員会の開催結果などの昨今の河川に関する現状や課題については、本懇談会で報告できておらず、共有されていないことは課題として感じている。(事務局)
 - ▶ 整備計画策定から15年経過している中で、社会が大幅に変化しているため、整備計画に書かれていること以外にもしっかりと課題を共有し、川部会以外にも交流を広げていくべきではないか。(中村座長)
- ・川部会のWGが実質1回しかなく、活動計画を作る中で不十分に感じる。(光岡)
 - ▶ 今一度、流域全体での具体的なビジョンを作ることは重要である。(中村座長)
- ・矢作川に関する事業を実施した中で、効果があった取り組みや工夫した点を実際に現地に行き、皆に解説したい。(山本)
- ・四季を通じて、大人も子供楽しめる水遊びを川部会と市民部会で何か取り組みたい。(鈴木)
- ・若い方にもこの川部会の会議に出てもらいたい。(中村座長)
 - ▶ 現場での世代交代は進んでいるので、そのような人々を巻き込んで活動していくことが今後重要と思う。(近藤)
- ・長期的に計画を立てている河川整備計画のその時々での課題点や進捗状況をこの場で共有したい。(北井)

●矢作川の生態系・河川環境について

- ・矢作川の本川では、生物多様性が失われている。ただし、支川は生物多様性が残っている。本川としての生態系や親水性について考えてもよいのではないかと。(松沢)
 - ▶ 元々の矢作川の状態と当時の人々がどのように感じていたか気になる。支川は今も生態系が保たれていることを知った。(中村座長)
 - ▶ 当時の写真は、矢作川研究所が集めている。(近藤)
 - ▶ 当時は、白黒写真なので、分かりづらいのが課題である。(事務局)
- ・矢作川としてあるべき未来の姿を考えていく必要があると思う。そのきっかけとして、過去の矢作川の状況を整理するのは重要と考える。(中村座長)
- ・山、川、海の物質的な流れが今後どのように変わっていくか関心を持っている。(吉川)

●整備計画更新とマスタープランについて

- ・気候変動を考慮した基本方針の見直しを矢作川では行っているか。(中村座長)
 - ▶ 今後検討を行っていくことになるが、現時点ではお示しできる内容はない。(事務局)
 - ▶ 整備計画のフォローアップとなるような懇談会としたい。(境)
 - ▶ 安城市において、農地等の浸水被害の対策として、雨水マスタープランの見直し業務が始まった。(有我)



◆お問合せ◆

矢作川流域懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。





発行日：令和7年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第56回海部会WGを開催しました！

第56回海部会WGでは、市民の方に海の現状や課題を正しく伝えることや海と人との絆の重要性を啓発することを目的に、矢作川流域付近で開催されている地域イベントへの参加について、意見交換を行いました。

日時：令和7年6月12日（木） 14:00~16:00

場所：西尾市役所

参加人数：21名 *事務局を含む



◆主な会議内容

1. 参加するイベントについて



矢作川流域付近で開催されている地域イベントの確認を行い、参加するイベントについて意見交換を行いました。今期の海部会では「第12回三河湾大感謝祭」への参加に向け、調整を進めていくことといたしました。

【参加するイベントの概要】

イベント名称：第12回三河湾大感謝祭

日程：2025年10月5日（日）

開催場所：西尾市 吉良ワイキキビーチ

テーマ・目的：三河湾環境再生プロジェクトの一環として、多くの県民に三河湾に関心を持っていただき、三河湾の環境再生に向けた機運を高めるため

主催：愛知県

イベントの参加について「愛知・川の会」近藤事務局長より下記のご意見がありました。

- ・ イベントに参加する目的を明確化することが重要と考える。
- ・ 海と都市部の住民の意識が乖離（かいり）している問題をすり合わせるのが今一番大事だと思う。その中で「森・里・海」から欠けている「都市」という概念が重要である。
- ・ 里ではなく、都市が海から、山から恩恵を被っているが、そこにあまり意識がないという問題をどのようにしていくかが大事である。
- ・ 流域の問題の啓発もすることが大事と考える。

2. 情報共有・意見交換



栄養塩不足の問題について鈴木先生より下記のご意見がありました。

- ・ 今年、豊かな海づくり大会が開催される三重県の鳥羽・磯部周辺は海苔養殖、カキ養殖、青海苔養殖、シラス船曳網など漁業の基地であるが、現在は全ての水産資源が非常に厳しい状況である。
- ・ 水産資源の衰退には温暖化や黒潮の蛇行など様々な原因はあるが、ベースにあるのは2010年以降の栄養塩不足が一番大きな原因ではないかと考える。
- ・ 下水道は必要なインフラであるが、下水道処理はやり過ぎると逆に毒である（栄養塩不足が進む）こと、今の流域下水道の高度処理がどんどん進む中で、いったん立ち止まることは重要な発信事項であると考え。下水道整備は、広域な流域下水道よりも、従前からの中山間地での市町単位の下水処理、個別家庭での浄化槽等の排水処理などが大事ではないかと考える。
- ・ 中山間地の農業が非常に荒廃しており、その結果、本来の排出される窒素やリンが少なくなっている。一つの典型的な例として肥料の問題ではなく、中山間地の農業用肥料の販売量が格段に減っていることが挙げられる。
- ・ 山、川、海のつながりの中で起こっていること、単に臨海部の下水処理だけ管理すれば済む話ではないということを知ってもらうような働きかけを矢作川流域圏の海部会から何か発信できないかと思う。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

● 矢作川流域付近で開催されているイベントについて

- 9月、10月頃以降に矢作川流域付近で開催されるイベントとして、「SDGs AICHI EXPO」、「三河湾大感謝祭」「商業施設にてPR活動」などを情報共有する。(事務局補佐)
 - ▶ 「商業施設にてPR活動」については、愛知県が出張してブース出展するようなものであるため、海部会の活動としては「SDGs AICHI EXPO」と「三河湾大感謝祭」へのブース出展が有力と考える。特に「三河湾大感謝祭」は海をテーマにしたイベントで、多くの市民の方への啓発活動が期待できると考える。(藤井)
 - ▶ 三河湾大感謝祭に参加することとする。どのような形で参加するかは、事務局に一任するのではなく、部会のメンバーが自主的に参加し、体験したり、市民の声を直接聞いたりすることも重要である。(青木)
- 中学校や小学校に環境問題をテーマにした出前授業で話をする機会が何度かあり、そのような中で子どもたちに今の川の状態、海の状態、山の状態の話をする共感を得られる。学校でのイベントを企画し、WGで意見交換している内容を子ども向けに、簡単な資料や動画などで説明するののも一つの案と考える。(鬼頭)
- 栄養塩の問題を市民の方に具体的に何が問題なのか伝えるのは難しい。そのため、栄養塩が不足している場所の海苔と栄養塩が不足していない場所の海苔を並べ、色の違いを見て頂くことで視覚的に分かりやすくなると思う。(事務局)
 - ▶ 岡崎市戸崎町の商業施設に大型のディスプレイとイベントを行えるスペースがある。そのような施設でイベントを行うのも1つの案と考える。(太田)
 - ▶ 使える場として、水族館や博物館も考えられる。(戸田)
 - ▶ 矢作川流域圏懇談会はイベントの企画運営する場ではないと考える。懇談会で得た財産を部会のメンバーが主体に活動することが重要だと考える。また、子ども達は学校で環境問題について学んでいるが、それと自分がどう関係があるかという認識はほとんどないのが現状である。持っている情報と自分たちをつなげるのは現場や海苔などで伝えるのがよいと考える。(近藤)
 - ▶ 部会のメンバーやこれから参加する人たちが、ネットワークを広げて、部会で話題となった課題をPRし、それを少しでも具体的な形に転換できるか、そのような面でこの流域圏に参加してもらおう人たちの増やすことが大事ではないかと思う。(鈴木(輝))

● 「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた取り組みについて

- 取材を受けた際に、一番説明を求められたのは「きれい」と「豊か」とはどのように違うのかということであった。私は「きれいな海」か「豊かな海」の二者択一ではなく、「きれいで豊かな海」はあると考える。干潟や浅場が今のような港湾整備に伴って埋め立てられる前は天然の浄化機能があった。今のような下水道整備はないが、陸や都市部、農山間地からたくさんの窒素、リンが流れていても、「きれいで豊かな海」が存在していた。緊急性の面からでは、まずは栄養塩不足の問題となるが、干潟や浅場の問題は決して消えたわけではない。矢作川の中で砂の循環を戻すことも忘れないようにする必要がある。(鈴木(輝))
 - ▶ 同感である。危惧しなければいけないことは、この問題を下水処理の問題と捉えるのは間違いであることと思う。下水道の管理運営は緊急処置だと認識しておくことが大事だと思う。(近藤)
 - ▶ 最近は環境省や農林水産省が冬の田んぼに水を張る「冬水田んぼ」の取組を支援している。子どもの頃に冬は田んぼに水が張ってあり、レンゲが植えられ、春になるとレンゲを肥料にして、米を作っていた。そのような伝統的な農業のやり方と最近の近代的な農業との違いに着目するのも良いと思う。(事務局)
 - ▶ 矢作川流域圏懇談会で、中山間地の農業と川や海の水質との関係を勉強することも一つ大きな活動だと思う。(鈴木(輝))
- ダムが海や川に与える影響は多大であり、現在、設楽ダムの工事による下流の六条潟のアサリへの影響が注目されている。そのような問題があることや解決方法の提案を発信していく必要があると思う。(鈴木(輝))
 - ▶ 工事で発生した砂を海に投入する取組などを実施しているため、発信できればと思う。(事務局)



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R6 市民・海合同部会編 vol.1



発行日：令和7年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆市民部会・海部会合同WGを開催しました！

市民部会・海部会合同WGでは、市民部会・海部会の第15期の活動目標や第5回公開講座の内容を報告しました。また、愛知県農業水産局の方から豊かな海の回復に向けた取組を紹介していただきました。最後に市民部会・海部会の合同イベントについて意見交換しました。



日時：令和7年2月13日（木）15:00～17:00
会議場所：西尾市 中央ふれあいセンター 3F 視聴覚室
参加者：18名（内オンライン参加1名） *事務局含む

◆主な会議内容

1. 第15期の活動目標について

第15期の最初のWGとなるため市民部会・海部会それぞれの活動目標を報告しました。



2. 第5回公開講座の振り返りについて

令和6年12月17日に開催した第5回公開講座「流域の視点から見た治水・環境と総合水管理～市民とともに創る豊かで持続可能な社会～」の内容を情報共有しました。



3. 豊かな海の回復に向けた取組について

愛知県農業水産局の方より「水質保全」と「豊かな海」の両立に向けた取組について紹介していただきました。

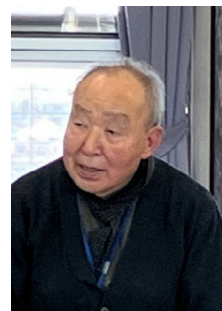
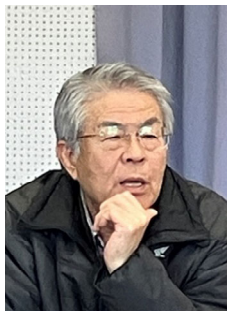
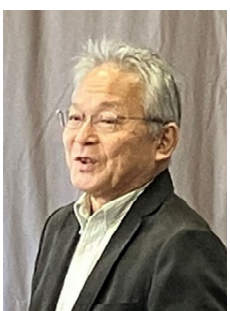
現在の伊勢湾・三河湾は栄養塩が不足していることに起因して、海苔の色落ちや、アサリ等の餌となるプランクトン不足が顕在化しています。改善するために「社会実験」として2箇所の浄化センターで放流水中の窒素とリンの濃度を増加させる取組をしています。結果、海苔の色落ちは軽減されましたが、アサリについては、個体数は増加しましたが肥満度は低下しました。これは栄養塩が不十分であることが理由であると考えられます。

「社会実験」の結果を踏まえて「栄養塩増加運転の継続（2027年度まで）」、「栄養塩増加運転を恒常的に実施するための枠組み検討（類型見直しや総量規制基準の緩和の検討）」、「栄養塩を漁業生産につなげるための取組（水産生物の産卵や育成の場となる干潟・浅場造成を推進）」が必要です。また、環境省が発表した類型等見直しについて一部改訂されます。利用目的の適応性から「水浴」を削り、柔軟に水域タイプの指定及び適宜適切な見直しを行う等が記載される予定です。



4. 市民部会・海部会の合同イベントについて

今期に予定している市民部会・海部会の合同イベントについて話し合いました。主な意見は「水産資源を食べながら海の課題を知っていただく」、「夏休みの時期であれば学生等を巻き込みつつ開催する」、「SNSを活用してイベントを周知する必要がある」です。また、懇談会が主催となるのではなく、他イベントへの参加等も含めて検討していく必要がある等の意見がありました。



◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

●豊かな海の回復に向けた取組について

- ・豊かな海の回復に向けた取組の中でどのような課題があるのか。（鈴木輝）
 - ▶ 漁業だけのために環境基準があるわけではない等意見がある。（柴田）
 - ▶ 環境基準を変更することで何かあった際にはどうするのかという問題がある。何か起きているのは現在であり、規制が過度になった10年間の内に、経営が悪化した組合が多数いる。仮に規制を緩めることで赤潮等が発生したとしても漁業者の生活を犠牲にしてよいとは思わない。今後は適応的管理によって調査・モニタリングによって規制を見直していく方針になりつつある。（鈴木輝）
- ・赤潮や貧酸素の一番の原因は沿岸域の埋め立てである。干潟や藻場等の生物の生息場を再生することが重要である。（鈴木輝）
- ・赤潮の中には有害赤潮と珪藻赤潮が存在し、水産に与える影響が違う。有害赤潮は貝毒等の原因であるため有害である。珪藻赤潮は動物プランクトンが食べに来て、それを小魚が狙い、さらに小魚を大きな魚が追って来るため歓迎されていると漁協で聞いたことがある。2つの違いをしっかりと説明する必要がある。（井上）
- ・矢作川流域圏には山・平地があり、降った雨が浸透して湧水があるということも重要である。現在は湾等に入った窒素、リン、ケイ素等が表流水由来か湧水からかが分かっている。（井上）
- ・海水浴、潮干狩りや海産物を食べる等の海とのふれあいから海と市民が親しめるようにすることが重要である。「きれいな海」、「豊かな海」、「親しめる海」の3つを両立していきたい。（柴田）

●冬水田んぼについて

- ・現在の田んぼは冬に水を貯留しないため、シギやチドリといった野鳥等が生息しなくなっている。（高橋）
 - ▶ 冬の田んぼに水を貯めることで雑草対策になり、不耕起でメタンの排出抑制になる。（井上）
 - ▶ 1年間の内、2/3は水が無いため、生物多様性が低下している。
- ・矢作川の土砂に関しては中流は河道が狭いことや砂洲が固定されていることからかなり厳しい状況となっている。そのためダムから海まで土砂を運び、海を再生することは良いと考える。ただし、持続可能とは思えない。もう一度土砂の循環について考える必要がある。人口減少社会と合わせてグリーンインフラ等を活用して空いた土地をどのような資源として循環社会に取り入れるか。（松沢）
- ・将来の担い手となる学生等の若い世代に里山等の景色を伝えていく必要がある。（松沢）
- ・今後はこういった議論をどのように流域市民に伝えていくかが重要と考える。（近藤）
 - ▶ シンポジウム等は限られた方が対象になる傾向がある、流域市民の方にも知っていただけるように広報してアピールしていきたい。（青木）

●市民部会・海部会の合同イベントについて

- ・SNS等を活用して発信することが有効と考える。（高橋）
 - ▶ 4月19日に循環フェスというイベントで”究極のおにぎり”と”しし汁”を販売する予定である。SNSを活用している若い世代が運営にも携わっているため、若い世代にも伝えるきっかけになると考える。流域市民が海の課題を知ったうえで支えあえるようになれば良いと考える。（鈴木建）
- ・カヌー等で、川下りのイベントを通して、生産者の意見を聞くことも良いと考える。（鈴木建）
- ・三河湾100キロウォーキングというイベントのように歩きながらSNS等で情報発信し、様々な人を巻き込むのはどうか。（太田）
- ・魚センター等で魚を食べていただき、海の状況を聞いていただき、船でクルージングするような企画も良いと考える。（青木）
- ・WGやFW等を通して知った情報を様々なイベントやネットワークで情報共有していくことが懇談会メンバーの重要な役割と考える。矢作川感謝祭や三河湾大感謝祭のように企画されたイベントに参加していくことも一つの手と考える。（近藤）
- ・今後、食に関する公開講座を市民部会で企画する予定である。（近藤）
- ・答志島や佐久島は日本の海や農地、土地利用の縮図のような部分がある。答志島の場合は2010年頃までは耕作水田が多数存在した。2024年に行った際には一つも見かけなかった。このような問題を行政も含めて考えていく必要がある。（松沢）
- ・例年通り、今年も10月に奈佐の浜海岸清掃を予定している。今年は懇談会と連携して実施したいと考えている。昨年は長野県の諏訪湖の団体と連携して実施した。（近藤）

今後の予定

■次回WG 日時：6月頃を予定

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R6 第5回公開講座



発行日：令和7年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第5回公開講座を開催しました！

新たに提言された「流域治水から流域総合水管理への転換」を市民の方に「自分ごと」として考えていただき、市民と自然が共生する社会の構築を目指していくために公開講座を開催しました。

「ネイチャーポジティブ」や「流域総合水管理」はあらゆる関係者の協働が必要とされています。これからの日本には都心部も含め、様々な地域で人口減少が加速していきます。「人口減少時代」を強く認識した時、従来の価値観・技術論とは異なる新たなポリシーを構築する必要があります。

今回の公開講座は山部会座長の蔵治氏、名古屋工業大学の萱場氏、自然共生研究センターの森氏の3名による鼎談形式としました。場所は名古屋大学 減災館 減災館ホールで開催し、全国から多くの方にご参加いただきました。

日時：令和6年12月17日（火）14:00～17:15

会場：名古屋大学 減災館 減災ホール

テーマ：流域の視点から見た治水・環境と総合水管理
～市民とともに創る豊かで持続可能な社会～

鼎談者：蔵治光一郎氏（東京大学 教授）

萱場 祐一氏（名古屋工業大学 教授）

森 照貴氏（土木研究所 自然共生研究センター長）

参加者：会場56名 オンライン92名 合計：148名



◆公開講座の内容

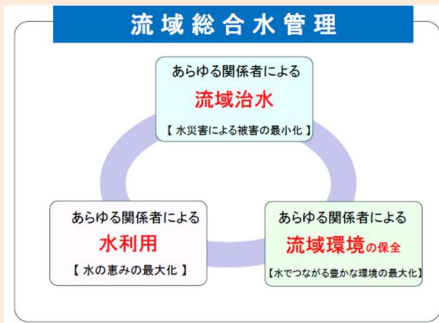
1. 流域治水から流域総合水管理へ

「流域総合水管理」は令和6年8月30日に閣議決定された「水循環基本計画」において位置づけられました。水循環フォローアップ委員長でもある蔵治氏に考え方を説明していただきました。

流域総合水管理とは…

治水に加えて、水利用・環境についてもあらゆる関係者が協働し、「水災害による被害の最小化」「水の恵みの最大化」「水でつながる豊かな環境の最大化」の実現を図る。

【出典：これからの「流域総合水管理」の推進（令和6年11月1日）より】



会場の様子

2. 話題提供

蔵治氏からは球磨川流域をフィールドとした「地域共創流域治水プロジェクト」の「流域治水×環境再生/森林マネジメント」に関する話題提供、萱場氏は「地域共創流域治水プロジェクト」で研究している雨庭や多自然川づくりに関する話題提供をしていただきました。森氏からは「ネイチャーポジティブ」と多自然川づくりに関する話題提供をしていただきました。



蔵治氏の発表



萱場氏の発表



森氏の発表

3. 3名の鼎談、意見交換



■3名の鼎談

はじめに洲崎氏より地域で取り組んでいる防災の事例をご紹介していただき、「流域総合水管理やネイチャーポジティブを実践していくために重要なこと」、「各地域で市民と行政が一体となって何ができるか」という視点で鼎談していただきました。

なお、当日の様子はYoutubeでアーカイブ配信しています。視聴したい方は下記QRコードより視聴してください。

【主な意見】

- ・ 「何とか」×「何とか」を考える際にトレードオフの関係になる。何かをやると何かが失われることもある。
- ・ 経験というものが消失している。良い環境やいい川が分からなくなっている。
- ・ 横軸に治水としての効果、縦軸に環境としての効果をとって考えることが重要。プラスにならなくてもマイナスにしないということが重要である。
- ・ 2年後くらいには、災いを寄せ付けないという治水の話だけではなく、恵みとして一体何が得られるかということも話せるようにしたい。
- ・ 大熊先生は大技術、中技術、小技術という分け方をしており、「治水にも自治を」という話をされていた。地域の地形や風土も考慮した技術を使いながら治水を進めていくべきである。
- ・ 地域が豊かになるような仕組みや地域のことはなるべく地域でできるようにしなければならない。
- ・ 平成の初期は景気が良く、環境保全がエンジンになった。今はそうではないため治水にもよく、環境にも良いという論点で何とか多自然川づくりを見直したい。
- ・ 矢作川流域には名だたる企業がたくさんあるため、矢作川流域圏大学のようなものがあったとしても良いのではないか。若者が集い、幸せに暮らすような流域の姿というのを、森林、農地、都市、川、海、に関わる全ての人で議論していく。
- ・ 環境に対して意識の高い企業が増えており、HP等を確認するとプラスチックや生物多様性等の環境に関する記載がされている。
- ・ 異分野の人との出会いには様々なヒントが隠されている。交流や意見交換を通じて科学反応が起き、様々な発想が出てくる。
- ・ 雨庭等は本当に効果があるのかという声が多い。ただ、流域治水は積み重ねであり、雨庭等の小さな治水をコツコツと積み上げていくことが個人に求められており、やれる範囲でできることをやるのが大切である。トップダウン的な流域治水の考え方ではなく、コミュニティーベースでどういった治水をするを考える必要がある。

■意見交換

会場やWeb参加者も含めて意見交換行いました。

【市民にできることは何か】

- ・ 市民の衣食住の元となるものを生産しているのはどこかの国の一次産業であることを認識する必要がある。そのうえでスーパー等に行った際にどこの農林水産業が続いてほしいかを考えるだけでも変わってくると思う。
- ・ まずは山、川、海に行って自然に触れることが重要である。そういった中で感動体験があると、自然や環境に興味を持つきっかけになると思う。

【他分野の企業に求められることはどういったことか】

- ・ 単に植林イベントやボランティア団体に寄付するだけでなく、社会課題を解決したいという企業が徐々に増えていくと思う。企業からは課題解決手段を問われた際に課題や課題解決に向けた手段を説明し、企業と組んで一緒に社会課題を解決していきたい。

【興味のない方に流域の課題等をどのように気づいていただけるか】

- ・ 興味のない人を変えることはとても難しい。そのため、ニュートラルな人を対象に少しずつ興味を持っていただくことが大事だと考える。興味を持ってもらうためには年代によってやり方は違うと思うが、Youtube等の活用が挙げられる。その中で気を付けていることは分かりやすい資料を作成し、理解していただくことが重要と考える。



地域で取り組む防災の紹介



鼎談の様子



アーカイブ配信
QRコード

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R6 流域連携 vol.6



発行日：令和7年3月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第3回 中部のいい川ワークショップに参加しました！

第3回 中部のいい川ワークショップ『伊勢湾から見た私たちの流域とのつながり』に参加しました。

4つのセッションにより、各団体からの活動報告と質疑応答を行うとともに、話題提供、世代を超えたクロストークにより意見交換しました。話題提供は、岐阜共立大学 教授 森誠一氏、日本トンボ学会 役員 松沢孝晋氏、名古屋大学大学院 教授 中村晋一郎氏より実施していただきました。

日 時：令和7年2月1日（土） 9:30～17:00
場 所：三重県四日市市楠福祉会館 ホール
主 催：中部流域連携ネットワーク
共 催：愛知・川の会、矢作川流域圏懇談会、
22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会



開会宣言の様子

■プログラム内容

時間	プログラム
9:30 ～9:50	開会 ・開会宣言/趣旨説明 近藤朗、清水雅子、名畑恵、中村晋一郎 ・中部流域連携への期待 中部地方整備局長 佐藤寿延
9:50 ～10:50	セッションⅠ コーディネーター：近藤朗 流域の入口～ここにいない人たちを巻き込むために～ ① 草薙の神剣とロードマップ；山川里海、中田慎 ② (一社) ClearWaterProject 小さな自然再生、つりチケなど；瀬川貴之 ③ 水辺とまちの入口研究所/堀川検定&ナゴヤSUP推進協議会；秀島栄三 ④ 木曽川流域研究会・木曽川研究会&みズべる会；中村晋一郎
10:50 ～11:40	セッションⅡ コーディネーター：清水雅子、河口千遥 流域を繋ぐ～水環境・流域総合水管理まで視野に入れて～ ① 矢作川流域圏懇談会；豊橋河川事務所 小池時広、中央コンサルタンツ 大嶋謙介 ② 豊田市矢作川研究所の30年/矢作川森の健康診断&天然アユ調査会など；近藤朗 ③ 揖斐川流域圏構想；泉京・垂井 神田浩史 ④ 鈴鹿川流域「魚と子どものネットワーク」3世代の共有；新玉拓也、峯和也 (11:40～12:30 お昼の休憩)
12:30 ～13:20	セッションⅢ コーディネーター：堺かなえ、清水雅子 世代を繋ぐ～全ての世代がこれからの新時代の担い手だ～ ① 未来創造プログラム；地域の未来・支援センター 三ツ松由有子with米田紗歩 ② 伊勢湾（答志島）でのアマモ場再生への挑戦；河口千遥 ③ 四日市市吉崎海岸と岐阜県小学校の交流；千葉賢、下田菜生 ④ 鈴鹿川 ネコギギの保全活動；鈴鹿高校 ⑤ 矢作川流域圏懇談会 担い手づくり事例集～流域圏大学構想へ；浜口美穂、近藤朗
13:20 ～14:10	セッションⅣ コーディネーター：近藤朗、堺かなえ 海から繋がる～伊勢湾・遠州灘から見れば中部全ての流域が繋がっていく～ ① 22世紀奈佐の浜プロジェクト；千葉賢、近藤朗、下田菜生、見屋井一輝 ② 長野県諏訪湖から答志島へ；近藤朗、小口智徳+信州大学生 ③ 矢作川流域圏懇談会；海部会 青木伸一、 伊勢湾再生推進会議 海域検討会；みなと総研 榎並万里子、伊勢湾フォーラム 柳田幸子 (14:10～14:20 午後の休憩)
14:20 ～15:05	話題提供 ①伊勢湾から見る流域環境；松沢孝晋 ②河川の時・空間論 ざわめく自然を求めて；森誠一 ③中部から川と人の関係性を考える；中村晋一郎
15:10 ～16:40	クロストーク；新玉拓也、中村晋一郎、森誠一、松沢孝晋
16:40 ～17:00	閉会



近藤朗氏



1. 第1部：4つのセッション

■ I.流域の入口、II.流域を繋ぐ、III.世代を繋ぐ、IV.海から繋がる

「セッションⅠ.流域の入口」では、狂言やIT、堀川検定および木曾川研究会などによって、これまで流域を認識していない一般市民を巻き込む活動を行っている個人、団体からの発表がなされた。



セッションⅠ.流域の入口 質疑応答の様子

「セッションⅡ.流域を繋ぐ」では、矢作川流域圏懇談会をはじめ、流域圏の認識のもと、各団体の活動が発表されました。



セッションⅡ.流域を繋ぐ 質疑応答の様子

「セッションⅢ.世代を繋ぐ」では、新時代の担い手である大学生や高校生がネコギギへの「愛」を語り、会場を熱くさせました。



セッションⅢ.世代を繋ぐ 質疑応答の様子

「セッションⅣ.海から繋がる」では、流域の問題は海で現れることを改めて認識させられる発表でした。



セッションⅣ.海から繋がる 質疑応答の様子

“繋がり”がテーマのセッションであり、矢作川流域圏懇談会としても流域内での繋がり、流域間での繋がりが大事であることを再認識させられました。

2. 第2部：クロストーク



■話題提供と世代を超えたクロストークセッション

松沢氏による「伊勢湾から見る流域環境」では、伊勢湾流域の成り立ちや東海丘陵要素のご説明や現代の水田が生物多様性にどのような影響を与えているか等をお話していただきました。

森氏による「河川の時・空間論」では、伏流水の重要性や「私たちは川のアミの目の中にいる」というお言葉をご紹介していただきました。

中村氏による「川と人の関係性を考える」では、川を線ではなく面としてとらえ、氾濫原の上にある社会を流域の一部と考えることが重要というお話をいただきました。

その後、新玉氏をコーディネーターに3名のクロストークによる話題の深堀、意見交換がされました。



新玉拓也 氏

松沢孝晋 氏

森誠一 氏

中村晋一郎 氏

世代を超えたクロストークセッションの様子



参加者全員での集合写真

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。





発行日：令和7年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第17回「川の日」・ワークショップ関東大会 in 前橋に参加しました！

群馬県の前橋市小屋原町で開催された第17回「川の日」ワークショップに参加しました。エクスカーションや各団体からの活動内容の発表・公開討論会等に参加し、様々な方と交流することができました。

矢作川流域圏懇談会の活動内容の発表として、「流域全体と三河湾での新たな取り組み」を紹介しました。また、NPO 地域の未来・支援センターから「伊勢湾流域圏と矢作川流域圏懇談会との連携の成果」を紹介していただきました。入賞には一歩及ばずでしたが、関東圏の各団体等の方々に懇談会の活動内容を知っていただき、交流することができました。

日 時：令和7年2月22日（土） 9:50～16:45
場 所：共愛学園前橋国際大学
主 催：第17回「川の日」ワークショップ関東大会 実行委員会



◆イベントの経緯と内容および発表内容について

1. イベントの経緯と内容



■イベントの経緯（HPより抜粋）

本ワークショップは、全国の『いい川・いい川づくりワークショップ』とも連携し、川や水辺の活動に取り組む多様な世代、多様な立場のひとびとの情報共有と、流域や地域を越えた交流、とくに、大学生や高校生、中学生など、若い世代の活動を発表、応援する場として開催します。川や流域だけでなく、源流域、海、用水、池沼、干潟、里山、田んぼ、水循環など、多様な水辺、テーマの取り組みを募集します。日頃の活動を発表したい、“いい川”づくりの知恵や力を共有したい、若い世代の取り組みを応援したい、仲間をつくりたい、みんなで作る大会です。

■主なイベント内容

- ◇エクスカーション（広瀬川：疎水百選にも選ばれ、農業、養蚕、文学など、地域と川のつながりを訪ねる）
- ◇講演（「前橋のまちと川」と題し、松村文雄さん（一級建築士）による講演）
- ◇全体発表（応募した14団体が、A・Bグループに分かれ、1団体5分で活動内容等を発表）
- ◇参加者全員による投票（ポスターセッション形式の交流とともに、カフェミーティング形式でダイレクトにアピールし、交流する。その後、応援コメント、メッセージとともに投票）
- ◇講評・表彰式（A・Bグループの各コーディネーターの講評とともに、投票結果から優秀賞を選定）

2. Aグループの発表内容について



■A-1：特定非営利活動法人熊谷の環境を考える連絡協議会

発表テーマ 荒川の恵みと熊谷を考える集い（熊谷周辺の荒川河川敷の清掃活動）

■A-2：共愛学園前橋国際大学前川ゼミ

発表テーマ 群馬県中之条町の温泉郷（沢渡・六号・四万）の魅力と課題に関する研究
～フィールドワークによる調査を通じて～

■A-3：NPO法人 あらかわ学会

発表テーマ 荒川放水路通水100周年記念 旧岩淵水門の重要文化財指定とその活用について

■A-4：一般財団法人 エコロジカル・デモクラシー財団

発表テーマ 「多摩川流域をありがとうでつくる：川、感謝すプロジェクト」

■A-5：途草会

発表テーマ ツギハギだらけの都市のなかの水の気配をおいかけて～都市の構築環境において雨水の表面流出経路を形成するさまざまな人工物の調査と流域単位への意味づけ～

■A-6：多摩川流域懇談会

発表テーマ 多摩川流域懇談会の活動紹介2024

■A-7：矢作川流域圏懇談会

発表テーマ 矢作川流域圏懇談会 ～新たな取り組み～



3. Bグループの発表内容について

- B-1：NPO地域の未来・支援センター
発表テーマ 伊勢湾流域圏での「未来創造プログラム」展開と矢作川流域圏懇談会との連携による成果
- B-2：広瀬桃木両用土地改良区坂東大堰土地改良区連合
発表テーマ 前橋の象徴「広瀬川」～まちなかの河畔整備が進む今だから、その源流と歴史を知ろう～
- B-3：黒目川筋肉部
発表テーマ 黒目川で躍動！？する筋肉部
- B-4：有限会社 福井工業
発表テーマ 魚にやさしい護岸、硬いかごマットを柔らかく、魚の隠れ家に
- B-5：早稲田大学本庄高等学院河川研究班
発表テーマ 藤田小と歩んだ14年間
- B-6：NPO法人鴻巣こうのとりを育む会
発表テーマ コウノトリの飛来状況
- B-7：NPO法人新田環境みらいの会
発表テーマ 石田川流域の貴重な植物や湧水地の保全活動



4 ポスター展示の内容について

- P-1：呑川の会
展示内容 呑川を人々に、もっと身近な川に



5. 優秀賞の受賞発表

3つの発表に優秀賞が送られました。

- A-5：高台は安全だけでなく、流域治水への潜在的効果が大きい等の身近ながら目立たない都市と水とのつながりをとらえる感性を豊かにするための実験的なワークショップ等の活動はとても面白そうです。
- B-5：本庄市内の小学生と連携した河川環境の保護活動や、他地域で活動している学校とのネットワーク構築が進んでおり、とても面白そうです。
- B-6：コウノトリへの愛を感じました。野生復帰が進むことを願います。



6. 当日の様子



NPO地域の未来・支援センターの発表の様子



ポスターセッションの様子



授賞式の様子



集合写真



矢作川流域圏懇談会のポスター

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R7 流域連携 vol. 1



発行日：令和 7年 5月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆循環フェス名古屋に参加しました！

矢作川流域圏懇談会は、矢作の恵みプロジェクトと共に矢作川流域圏懇談会の活動や矢作川流域の問題・恵みについてブースに立ち寄ってくださった方々に紹介しました。矢作川流域を飛び出し、名古屋を含む伊勢湾流域（伊勢湾流域の中には矢作川流域も含む）で情報発信することにより、伊勢湾流域の中心部の方々にも流域の問題・恵みを知っていただきました。

日 時：令和7年4月19日（土） 10:00~17:00
場 所：エディオン久屋広場
主 催：認定 NPO 法人 中部リサイクル運動市民の会



循環フェスポスター



循環フェスでのブースの様子

◆循環フェス名古屋の開催目的と矢作川流域圏懇談会・矢作の恵みプロジェクトの参加について

1. 循環フェス名古屋の開催目的

循環フェスは、名古屋市を中心に新しい「古着の循環」の仕組みをZ世代と共に広げるリユースの祭典。気軽にリユースやリサイクルに触れることができるワークショップや展示、トークショーなどのステージイベント、安心安全な食材で美味しいフードマルシェなど、参加者の皆さんが楽しみながら循環を知ることができる企画が詰まったイベントです。（循環フェス名古屋HPより）

2. 矢作川流域圏懇談会の参加

■矢作川流域圏懇談会の活動紹介

矢作川流域圏懇談会のこれまでの活動を紹介し、参加者に活動内容や意義を伝えました。

また、矢作川流域圏懇談会が作成している「矢作川流域圏懇談会10年誌」、「流域圏担い手づくり事例集V」、「森のひとをつなぐ」等の配布や、関係団体の資料を配布し、矢作川で起きている問題や恵みを情報発信しました。

3. 矢作の恵みプロジェクトの参加

■矢作の恵みの食品の販売

「矢作の恵みプロジェクト」は矢作川流域圏懇談会 市民部会座長の鈴木建一氏を中心に2025年4月から発足したチームです。流域の問題・恵みを、「食」を通じて知っていただくために活動しています。循環フェスでは矢作川流域圏懇談会と連携して矢作川の恵みで育った「塩おにぎり」、「しし汁」、「アイス」を販売しました。「塩おにぎり」は2024矢作川感謝祭で使用した「ミネアサヒ」に加えて、安城市の「水田貯留米」を使用しました。容器には環境に優しいバガス容器を提供していただきました。矢作川流域圏懇談会はこの活動を後援し、循環フェス名古屋では連携して水田貯留等の取組を情報発信しました。



当日に使用した「塩おにぎり」、「しし汁」POP

提供・使用した食材等		氏名・団体名	
調理		山里カフェMui	
材料	おにぎり	ミネアサヒ (提供)	山本薫久様 (市民部会副座長)
		水田貯留米	安城の農家さん
		青まぜ海苔	坂井海苔店
		饗庭塩	吉良屋
	しし汁	山里カフェMui	
アイス	ペアツリーファーム		
バガス容器(提供)	株式会社折兼		

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

R7 流域連携 vol.2



発行日：令和7年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆2025 矢作川感謝祭に参加しました！

矢作川流域圏懇談会は、矢作の恵みプロジェクトと共に矢作川流域圏懇談会の活動や矢作川流域の問題・恵みについてブースに立ち寄ってくださった方々に紹介しました。矢作川流域の問題・恵みを知っていただきました。

関係する団体（矢作の恵みプロジェクト、東幡豆漁協）と協力し、市民の方々に、矢作川流域の恵みを感じてもらいつつ、問題についても考えていただきました。

日時：令和7年9月7日（日） 10:00～15:00

場所：千石公園（矢作川右岸河川敷）



矢作川感謝祭ポスター



ブースの様子

◆矢作川感謝祭の開催目的と矢作川流域圏懇談会・矢作の恵みプロジェクトの参加について

1. 矢作川感謝祭の開催目的

矢作川流域の課題を今一度再認識するとともに、矢作川流域の自然の恩恵にあらためて感謝し、その実力と魅力を多くの人々に伝え、共感と行動へとつながることを目的とする。（矢作川感謝祭HP「開催目的」より抜粋）



2. 矢作川流域圏懇談会の参加



■矢作川流域圏懇談会の活動紹介

矢作川流域圏懇談会のこれまでの活動を紹介します。参加者に活動内容や意義を伝えました。

また、矢作川流域圏懇談会が作成している「矢作川流域圏懇談会10年誌」、「流域圏担い手づくり事例集V」、「森のひとをつなぐ」等の配布や、関係団体の資料を配布し、矢作川で起きている問題や恵みを情報発信しました。

■みんなの矢作川流域ものがたり（流域マップにポストイット）

矢作川の流域マップに思い出の場所や行ってみたい場所、要望などをポストイットしていただきました。流域を俯瞰して見ることで、水のつながりを意識し、山から海までの全体像を考えるきっかけとなりました。



ポストイットの様子



3. 関係団体の参加

■矢作の恵みプロジェクト

「矢作の恵みプロジェクト」は矢作川流域圏懇談会 市民部会座長の鈴木建一氏を中心に2025年4月から発足したチームです。流域の問題・恵みを、「食」を通じて知っていただくために活動しています。

矢作川感謝祭では、左の表の食材を提供し、流域の重要性や課題を知っていただきました。

	提供・使用した食材等	産地
おにぎり	ミネアサヒ	豊田市産
	水田貯留米	安城市産
	海苔	三河湾産
	饗庭塩	西尾市産
	クラフトビール	豊田市、安城市産
	アイスクリーム	平谷村産
	鹿ソーセージ	豊田市産

■東幡豆漁業協同組合

東幡豆漁業協同組合と協力し、毎年大人気の三河湾で取れる魚と触れ合うタッチプールを今年も開催しました。子供たちも大喜びで大人気のブースとなりました。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R7 流域連携 vol.3



発行日：令和7年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第12回三河湾大感謝祭に参加しました！

矢作の恵みプロジェクトと共に矢作川流域圏懇談会の活動や矢作川流域の問題・恵みについて、ブースに立ち寄ってくださった方々に紹介しました。

関係する団体（矢作の恵みプロジェクト、東幡豆漁協）と協力し、市民の方々に、「食」や「生物」を通じて矢作川流域の恵みや問題について、考えていただきました。

日時：令和7年10月5日（日） 10:00～16:00

場所：吉良ワイキキビーチ（宮崎海水浴場）



三河湾大感謝祭ポスター



ブースの様子

◆三河湾大感謝祭の開催目的と矢作川流域圏懇談会・関係団体の参加について

1. 三河湾大感謝祭の開催目的

多くの人々に三河湾に関心を持ってもらうことを目的に、三河湾環境再生パートナーシップ・クラブを始め、様々な主体と連携・協働して三河湾大感謝祭を毎年開催しています。（愛知県「三河湾再生プロジェクト」HPより）



2. 矢作川流域圏懇談会の参加

■矢作川流域圏懇談会の活動紹介

ブースでは、矢作川流域圏懇談会のこれまでの活動を紹介し、参加者に活動内容や意義を伝えました。また、ステージイベントでは、海部会座長 青木氏、事務局 山路副所長のお2人に懇談会の活動や三河湾の現状などについてご説明いただきました。

■みんなの矢作川流域ものがたり（流域マップにポストイット）

矢作川の流域マップに思い出の場所や行ってみたい場所、要望などを記載していただきました。流域を俯瞰して見ることで、水のつながりを意識し、山から海までの全体像を考えるきっかけとなりました。

■三河湾の栄養塩不足に関する動画の公開

三河湾の現状を多くの流域市民の方に知っていただくため、海苔・アサリの生産者の方へのインタビューや海部会座長 青木氏、副座長 鈴木氏の解説をまとめた動画を公開しました。



動画URL



ステージイベントの様子



動画公開の様子

3. 関係団体の参加

■矢作の恵みプロジェクト

「矢作の恵みプロジェクト」は矢作川流域圏懇談会 市民部会座長 鈴木建一氏を中心に2025年4月から発足したチームです。流域の問題・恵みを、「食」を通じて知っていただくために活動しています。

三河湾大感謝祭では、矢作川の恵みで育った食材を使用したおにぎりの提供を行い、流域の重要性や課題を知っていただきました。

■東幡豆漁業協同組合

東幡豆漁業協同組合と協力し、三河湾に生息する魚をまとめたパネルの展示を行いました。



東幡豆漁業協同組合のブースの様子

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

